

福島から

2019年9月27日

ISEP20周年プレイベント

「地域から持続可能なエネルギー未来を創る」

近藤 恵

- 1 ・ 有機農業と原発事故（自己紹介）
- 2 ・ ISEPとの出会い
- 3 ・ 福島の新しい現実（リスクミ）

1 ・ 有機農業と原発事故（自己紹介）

2 ・ ISEPとの出会い

3 ・ 福島の新しい現実（リスクミ）



ちたた農園















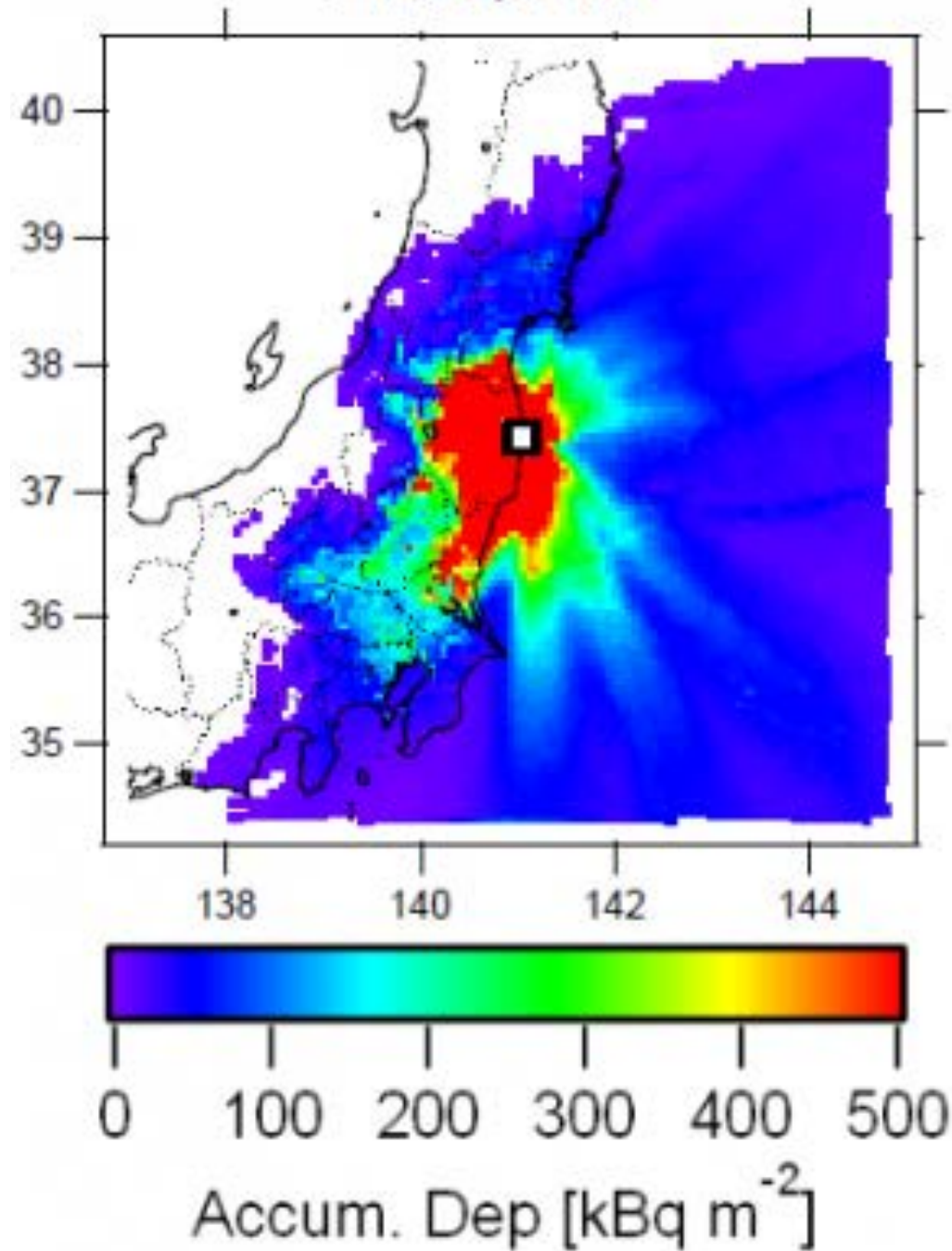
幻の放射性ヨウ素の拡散地図

”セシウム拡散地図との違い”

沸点

- ・ヨウ素：184度
- ・セシウム：671度

ヨウ素131



セシウム137

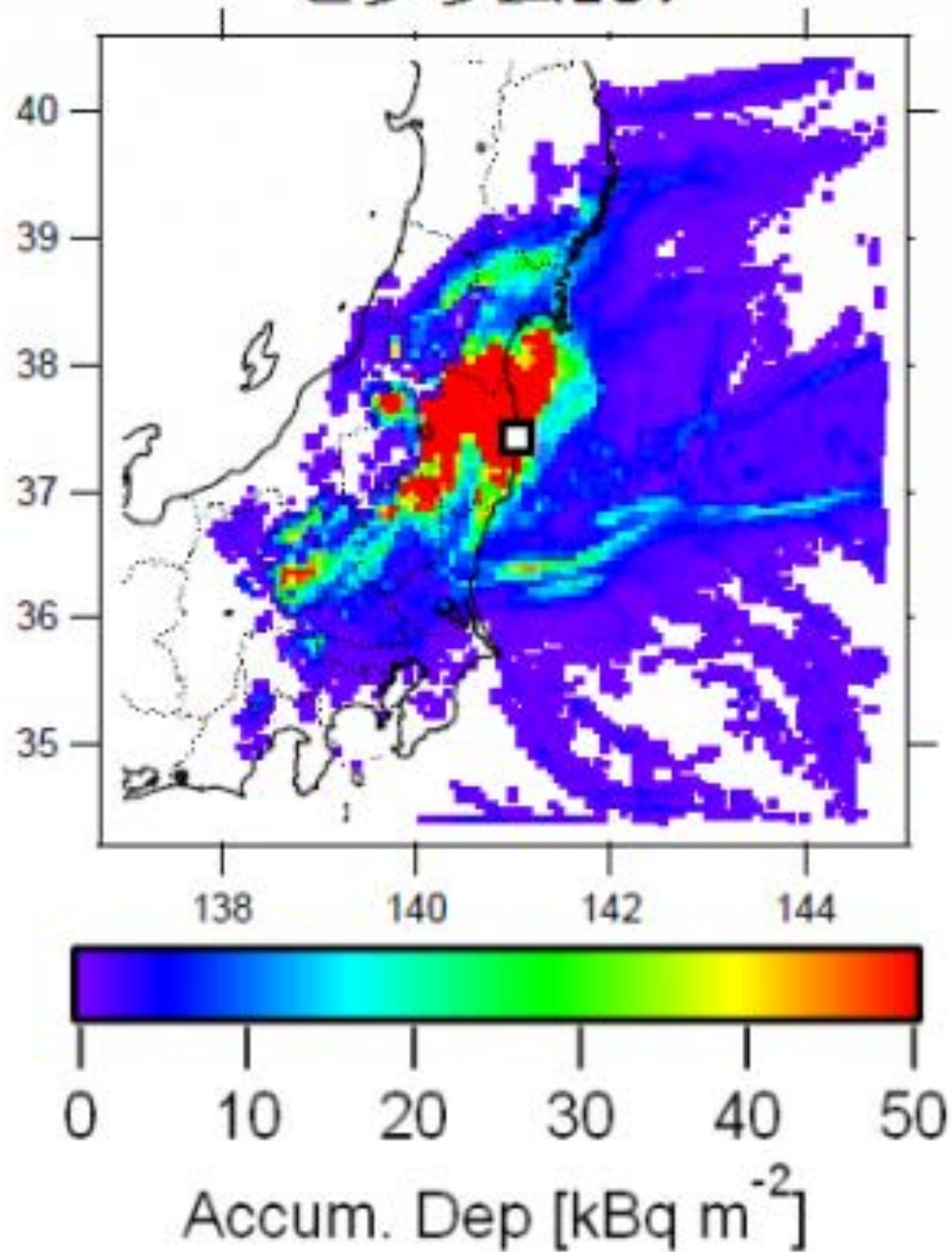
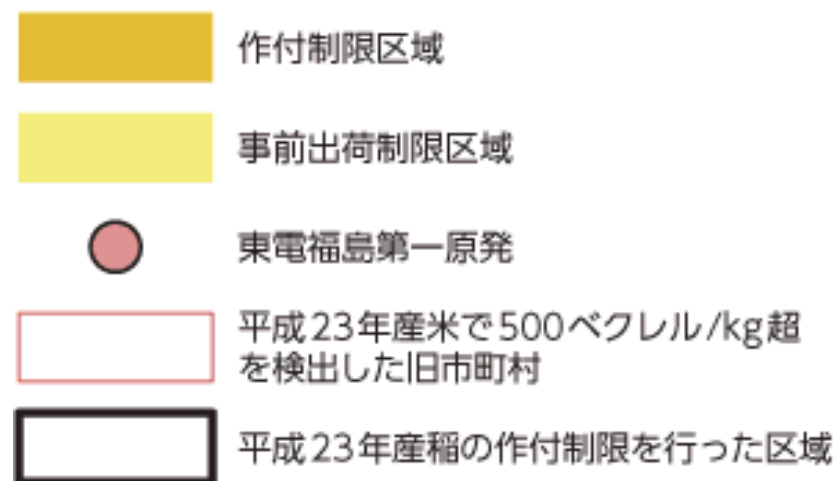
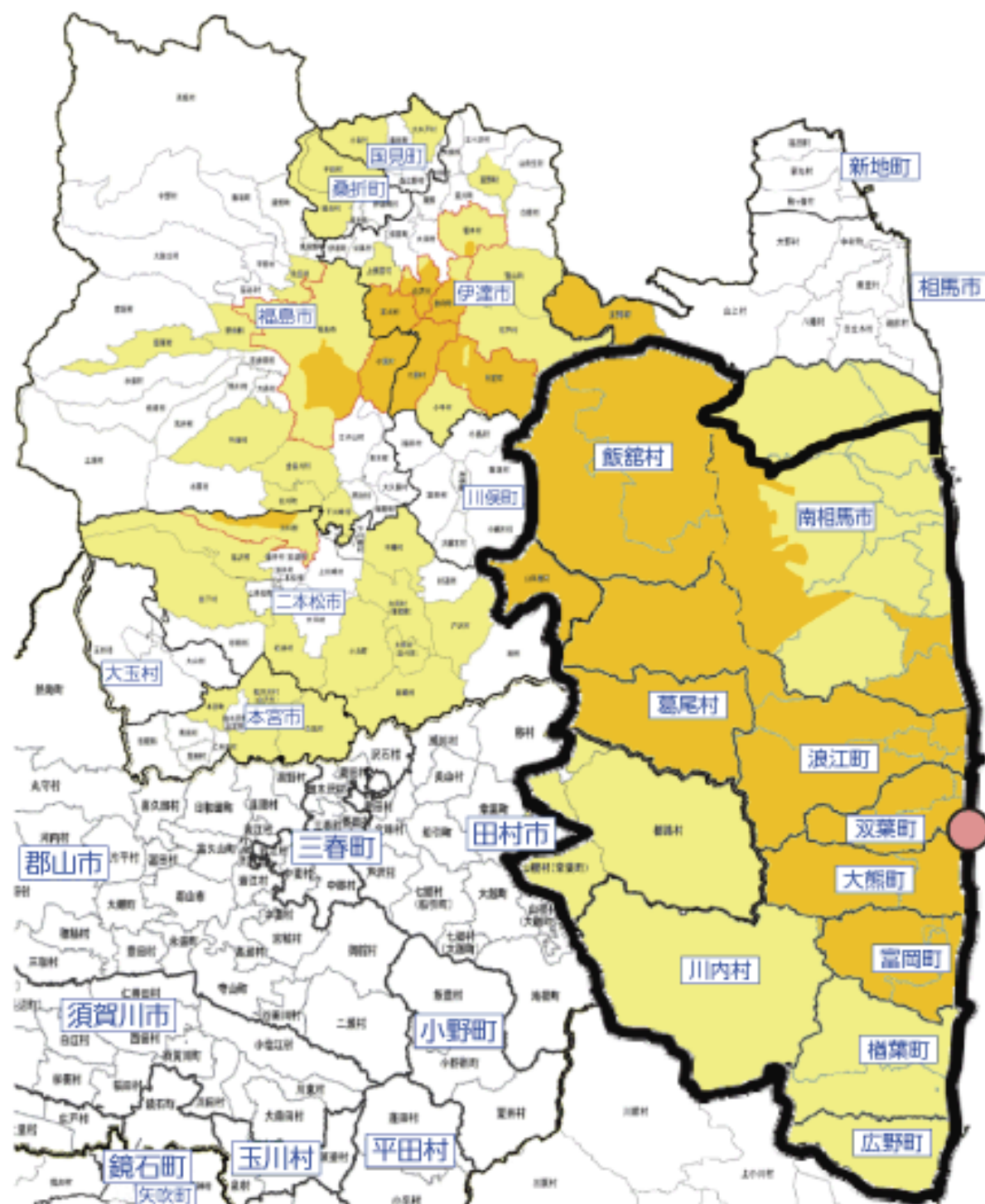


図1-2-6 平成24（2012）年産米の作付制限等の区域



拡大



2 度目の廃業

”自給できていたつもり”

”エネルギーを作る農家へ”

”安全な食べ物が作れるまでの間”

- 1 ・ 有機農業と原発事故（自己紹介）
- 2 ・ ISEPとAPLAとの出会い
- 3 ・ 福島の新しい現実（リスクミ）



2011.8.7

人参播種研鑽会



- 第1回 (2012年4月7日):
「作物による農地の放射能除染と有機のイネ作り」
NPO 法人民間稲作研究所 稲葉光國さん
- 第2回 (2012年6月9日):
『ミツバチの羽音と地球の回転』上映&鎌仲ひとみ監督トーク
映像作家 鎌仲ひとみさん
- 第3回 (2012年7月14日):
「福島からはじめる日本の未来」
東京大学 児玉龍彦さん、慶應義塾大学 金子勝さん
- 第4回 (2012年9月1日):
「地域密着型経済と脱原発の道」
城南信用金庫理事長 吉原毅さん
- 第5回 (2012年12月1日):
「困難な時代をどう生きるか～命・食・放射能える～」
諏訪中央病院名誉院長・作家 鎌田實さん
- 第6回 (2013年2月2日):
「福島県有機農業への道～私の政治理念と自然と」
元福島県知事 佐藤栄佐久さん
「原子力災害から食と農の再生を」
福島大学 小山良太さん





農業者がなぜか太陽光に否定的

- 1・不労所得
- 2・ゴミになる
- 3・自分で使えない



震災後のあゆみ から 現在まで

 **ちたた農園**



農業協同組合

1年：農業を継続→廃業

1年：居候生活

1年：農協アルバイト

1年：農協正職員



飯舘電力

2年：職員

2年：役員



AgroKraft

2019年8月15日 設立

- 1 ・ 有機農業と原発事故（自己紹介）
- 2 ・ ISEPとの出会い
- 3 ・ 福島の新しい現実（リスクミ）

汚染土の県外搬出「できるのか」 田中・規制委前委員長

石塚広志 2019年9月18日22時17分

原子力規制委員会の田中俊一・前委員長は18日に福島市内であった講演で、東京電力福島第一原発事故の除染作業で出た汚染土について、「自分たちのところが嫌なものを、他の県に持って行く。実際にそんなことができるのか」と述べた。

田中氏は講演で、保管先の福島県大熊、双葉両町の間蔵施設から30年以内に県外で最終処分するという政府方針を説明したうえで、「（福島県が）自ら解決、克服していかないといけない」と強調。委員長を退任後、自身が県内で取り組んでいる汚染土の再生利用の必要性を訴えた。

汚染土は2015年、中間貯蔵施設への試験搬入が始まった。21年度までに1400万立方メートル（東京ドーム11個分）を搬入する計画で、法律上、45年3月にはすべての汚染土を県外に持ち出すことになっている。

貯蔵施設を所管する小泉進次郎・環境相が12日、就任後初めて福島県を訪れた際に、内堀雅雄知事に「『30年』、この約束を守れるように全力を尽くします」と話している。
(石塚広志)

急激に保守化している

- ・ 飯舘電力会長の話
- ・ 飯舘村議員の話

福島県外での処分ができますか？

大熊町と双葉町の間処分場に運んでも、そこから動かすことはできないとすれば、負担を両町に押し付けることになります。

飯舘村では、唯一残された帰還困難区域である長泥地区の皆さんが、地区の再生と大熊町と双葉町の負担を少しでも減らすべきという住民の考え方で合意し、飯舘村の除染土壌を再生利用する実証事業に取り組んでいます。

田畑を占拠している除染土壌等は、復興の最大の障害です。東電の責任や国の約束を論じて、事態は改善される見込みはありません。福島県民には、この現実を直視し、現実的な解決策を見つけることが求められています。

©民の声新聞

除染廃棄物は安全に埋設処分できます

- セシウムは土壌に固定化され、容易に動かない性質を有している。例えば、ベントナイト(粘土)層でのセシウムの300年間の移動距離は0.1mm程度である。Cs-137は、300年で1/1000に減衰する。
- 土壌とともに流失するセシウムを防ぐ対策をした上で、排水中のCs-137濃度を監視する。
- 覆土によって、表面での放射線量率を、十分低くすることが容易です。

浪江の高校生のおはなし

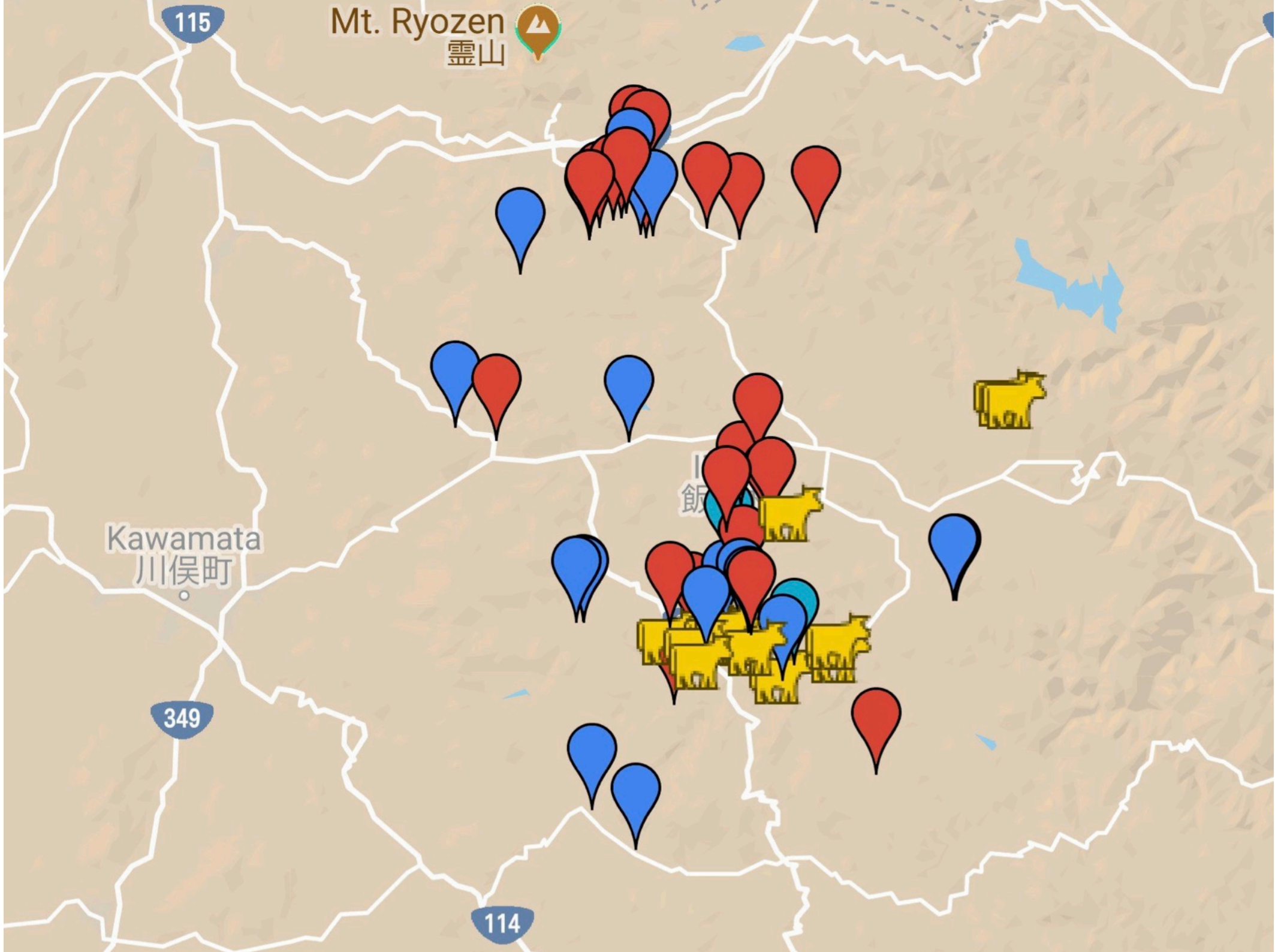
「謝ったんだからいいだろう」

「許してやれ」

- 1 ・ 有機農業と原発事故（自己紹介）
- 2 ・ ISEPとの出会い
- 3 ・ 福島の新しい現実（リスクミ）
- 4 ・ 福島のでの取り組み













哲学の農業経営者



哲学の農業経営者



・仲間と”農の力”を発揮させるいくつかのプロジェクトを手がけながら

農業者（個人）の自立と自律

内村鑑三の地方伝道（私立高校）

基督教独立学園高等学校（1934）

キリスト教愛真高等学校（1988）

愛農学園農業高等学校（1964）

塚田晴さん・高校3年生

市場規律の3段階（楠木建氏）

- ・ 競争市場 “お客様”・・・安くて良いもの
- ・ 資本市場 “株主”・・・規模やブランド
- ・ 労働市場 “働く仲間”・・・哲学

”ひとつの橋の建設がもしそこに働く人びとの意識を豊かにしないものならば、橋は建設されぬがよい・・・（中略）・・・市民は橋をわがものにせねばならない。このときはじめて、いっさいが可能となるのである”

「地に呪われたるもの」 フランツ・ファノン著 みすず書房 2015新装版

福島を第2のマルティニーク島にしないために

(ひとり 1 人が) 好きな組織・チームで好き勝手働く



“おわり”